

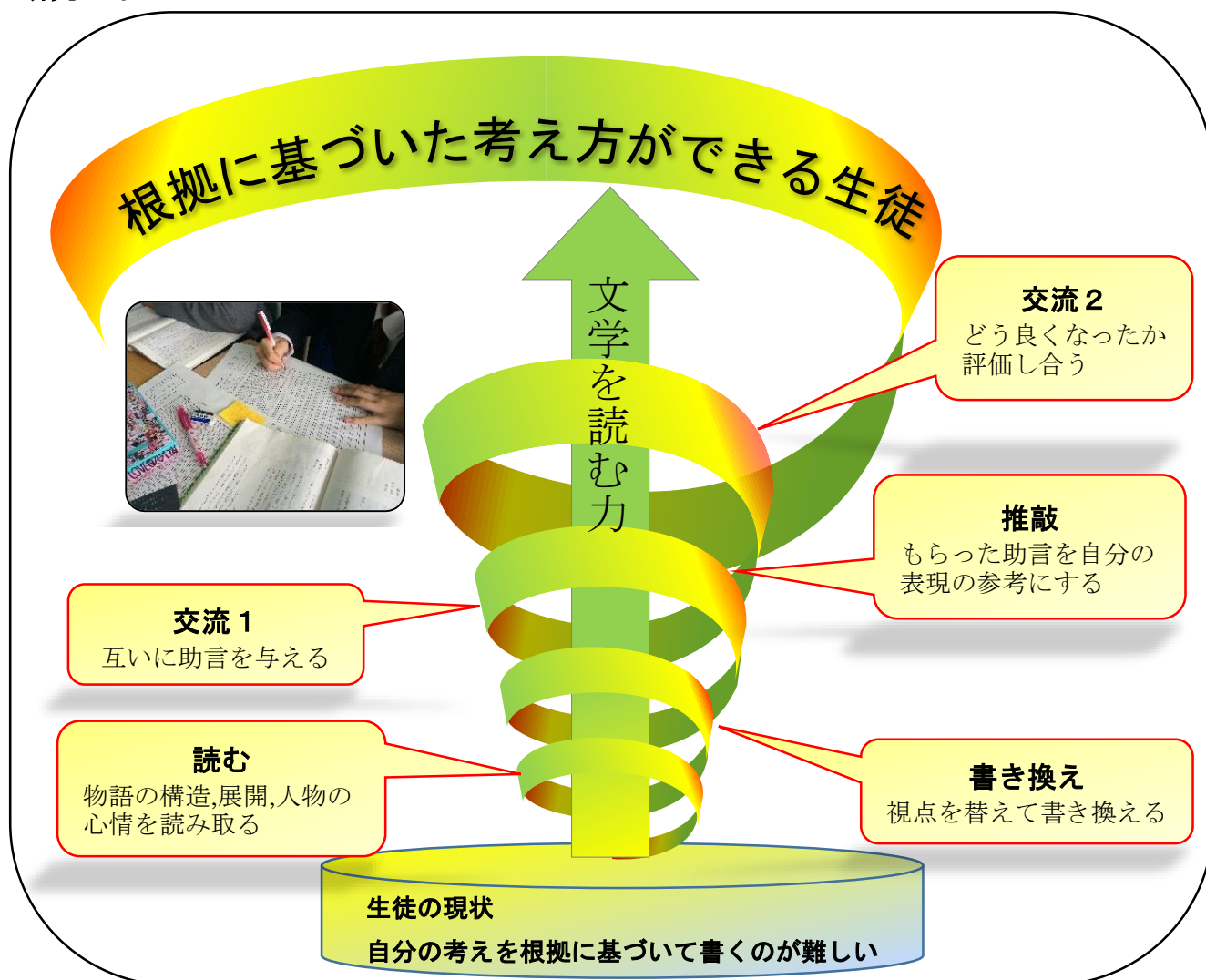
根拠に基づいた文学的文章の読みの力を高める指導の工夫 ～描写に着目した書き換えや交流を通して～

那覇市立松城中学校教諭 名富 綾乃

＜研究の概要＞

中学校国語における文学作品の学習では、文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつことが求められている。しかし「自分の考え」を「根拠に基づいて」書き表す力には全国的に課題が見られる。このような課題に取り組むために、今回は文章の書き換えという手立てを用い、文章を異なったジャンルや視点を替えて書き換える活動が、根拠に基づいた考え方の形成に有効であることを検証した。

＜研究のイメージ＞



＜研究の成果＞

- 文章を書き換える活動は、本文の描写や工夫に着目することにつながり、作品について根拠に基づいた考え方を形成するうえで有効であった。
- 書き換えた文章を互いに読み、意見を交流させることは、自分の考えを根拠に基づいて書き表すことに有効であった。

目 次

I	テーマ設定の理由	49
II	研究目標	49
III	研究仮説	49
	1 基本仮説	
	2 作業仮説	
IV	研究構想図	50
V	研究内容と方法	50
	1 文学的文章における読みの指導について	
	(1) 文学的文章における読みの力とは	
	(2) 文学的文章の読みの指導とは	
	2 文章の「書き換え」について	
	(1) 文学的文章における「書き換え」とは	
	① 「書き換え」とは	
	② 文学的文章における「書き換え」	
	(2) 書き換え文の交流について	52
	① 交流の意義	
	② 交流を二度取り入れる意義	
VI	授業実践（第1学年）	53
	1 単元名 エーミールの立場から事件を見つめてみよう（教材『少年の日の思い出』）	
	2 単元目標	
	3 指導計画及び学習目標	
	4 本時の学習	
VII	結果と考察	54
	1 作業仮説1の検証	
	2 作業仮説2の検証	
VIII	成果と課題	56
	1 成果	
	2 課題	

<主な参考・引用文献>

根拠に基づいた文学的文章の読みの力を高める指導の工夫 ～描写に着目した書き換えや交流を通して～

那覇市立松城中学校教諭 名富 綾乃

I テーマ設定の理由

中学校学習指導要領では「C読むこと」の領域において「自分の考えの形成」に関する指導事項が明記され、文章の内容についてだけでなく、構成や展開、表現の特徴についても自分の考えをもつことが求められている。しかし、平成27年度全国学力・学習状況調査の中学校国語B問題における本校の中学生の正答率は、「複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く」設問で 22.1%（全国 23.0%）、「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く」設問では 40.0%（全国 31.1%）となっており、「自分の考え」を「根拠に基づいて」書き表す力に課題がある。この傾向は全国的にも同じようなことが言える。

これまでの指導において、ある文章を読んで自分の考えを形成する言語活動をたびたび取り入れてきた。しかし、生徒が「自分の考え」として書き表す内容には、文章の叙述や描写、言葉などの意味を取り違えて解釈しているものや、個人の思い込みの域を出ないものも見受けられ、文章を読み取る力をつける指導が不十分であったと考える。そこで今回の研究では、文章の読みの力を高める指導について研究を進める。国語科の教材として扱う文章は、説明的文章と文学的文章に大別することができるが、今回の研究では前述の全国学力・学習状況調査中学校国語B問題で無解答率の最も高かった（本校 10.5%、全国 11.2%）文学的文章を教材として取り上げることにする。

文学的文章の指導に関しては、教育課程審議会から「文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、自分の考えをもち、（中略）目的に応じた的確に読み取る能力」を育てることを重視するよう改善案が示されている（1998 最終答申）。このような課題に取り組むために、今回は文章の書き換えという手立てを用いる。文章を異なったジャンルや視点を替えて書き換える活動が、根拠に基づいた考え方の形成に有効であることを検証するために、本テーマを設定した。

II 研究目標

文学的文章の読みの力を高めるために、文章の書き換えや交流を取り入れた授業の実践を通して、根拠に基づいた読み取りができる指導の工夫について研究する。

III 研究仮説

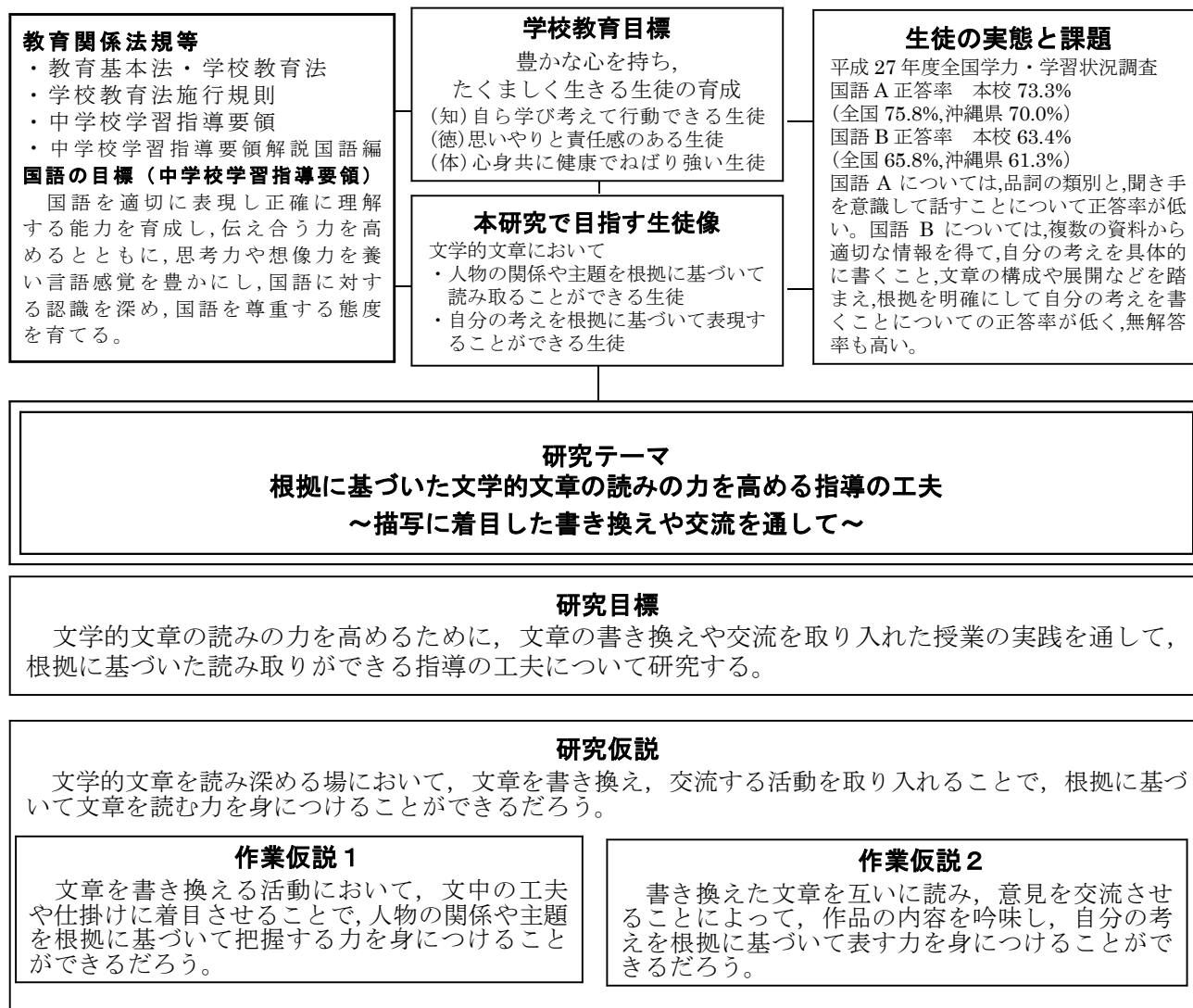
1 基本仮説

文学的文章を読み深める場において、文章を書き換え、交流する活動を取り入れることで、根拠に基づいて文章を読む力を身につけることができるだろう。

2 作業仮説

- (1) 文章を書き換える活動において、文中の工夫や仕掛けに着目させることで、人物の関係や主題を根拠に基づいて把握する力を身につけることができるだろう。
- (2) 書き換えた文章を互いに読み、意見を交流させることによって、作品の内容を吟味し、自分の考えを根拠に基づいて表す力を身につけることができるだろう。

IV 研究構想図



V 研究内容と方法

1 文学的文章における読みの指導について

(1) 文学的文章における読みの力とは

文学的文章について、浜本(2001)は「ある事件や出来事を通じて変化・成長するある人物の姿を具体的に表すことによって筆者の考えを表現している文章」と定義づけている。「読む能力」を文学的文章を題材にして育成するために、今回は指導事項「(1)ウ場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること」「(1)エ文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと」に重点をおく。

文学的文章の指導においては、文章の内容の理解だけでなく、その内容や表現の仕方について「自分の考え」を持つ力を身につけさせる指導が必要とされる。「自分の考え」を持つ力を身につけ、それを表現して伝えるには、その考えを支える根拠を明確にする必要がある。本研究では文学的文章の読みの指導において、「書き換え」活動を取り入れ、根拠に基づいた自分の考えを形成する力につなげる。

(2) 文学的文章の読みの指導とは

阿部昇(2015)は物語・小説を「読む力」を豊かに身につけさせるための指導方法について次のような指導過程を提案している(表1)。「はじめに『構造よみ』で作品の『構成・構造』を読む。次にそれを生かしながら『形象よみ』で各部の『鍵』となる語や文に着目し、『形象』や『形象相互の関係』を読み深める。」

表1 物語・小説の指導過程

＜指導過程＞	＜本研究での取組＞
① 構造よみ 構成・構造を読む⇒	導入部・山場・登場人物の把握
② 形象よみ 形象・技法を読む⇒	物語の山場の描かれ方の把握
③ 吟味よみ 吟味・評価をする⇒	語り手を替えての書き換え

【阿部(2015)を参照に筆者作成】

本研究では「構造よみ」で導入部・山場・登場人物の把握をし、「形象よみ」で物語の山場の描かれ方を把握する。「形象よみ」については「その際に様々な『技法(レトリック)』や『仕掛け』に着目する。その延長線上で『主題』をつかむ。」とある。「吟味読み」とは「それまでの『構造よみ』『形象よみ』を再読し、吟味・評価を『書くこと』に発展させて行うこと」とされ、今回は語り手を替えて本文を書き換える学習を取り入れる。

2 文章の「書き換え」について

(1) 文学的文章における「書き換え」

① 「書き換え」とは

「書き換え」について堀江(2015)は、本文の記述を元に「異なったフォーマット(形式)やジャンル(表現様式)に書き換えていくこともある」とし、要約の学習も「『書き換え(リライト)』の側面を持っている」としている。そのうえで「『書き換え』学習活動は、あくまで元の作品(文章)の理解をより深めるための学習活動」であり、「それまで読み取れていなかったものが見えてくるように、常に元の作品(文章)に立ち返らせることが重要」と述べている。また守田(2015)は、要約文を書くには、「文章全体の構成や構造を理解しなければならない。さらには理解した内容を抽象化して表現することもできなければならない。」としている。

本研究では、そのような「書き換え」を文学的文章の指導に取り入れる。第3学年では文学的文章の形式について検討し、それを評価する力を身につけさせるが、それができるようになるには第1, 2学年での「自分の考え」を持つための指導が必要となる。「自分の考え」を持つためには、文章を主観的に味わうだけでなく、客観的・分析的に読み深める力が求められる。

② 文学的文章における「書き換え」

文学的文章を書き換える学習活動には、例えば語り手を替えたり、物語を日記などの形式に替えたりという方法がある(図1)。このような学習の

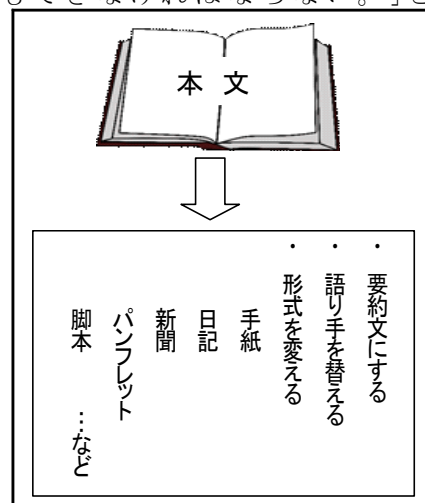


図1 文学的文章の書き換え例
【堀江(2015)を参考に筆者作成】

過程において学習者は、作品を何度も読み返したり、別の角度から見直したり、全体像を意識するなど、客観的、分析的に読む力を培うことができると思われる。本研究で目指すのは、文学作品について自分の考えを形成するにあたり、その考えを本文の描写、つまり根拠に基づいて説明できる生徒の育成である。そのような生徒の力を伸ばすひとつの手立てとして、文章の書き換えを指導のなかに取り入れる。書き換えの方法としては、視点の転換を用いることにする。視点の転換とは、語り手を他の登場人物の視点から見つめ直すことで、春田(2008)は、この方法には「主人公とは違ったものの見方や考え方が見えてきたり、主人公のものの見方や考え方について考えを深めたりすることができる」という意義がある。」と述べている。

(2) 書き換え文の交流について

① 交流の意義

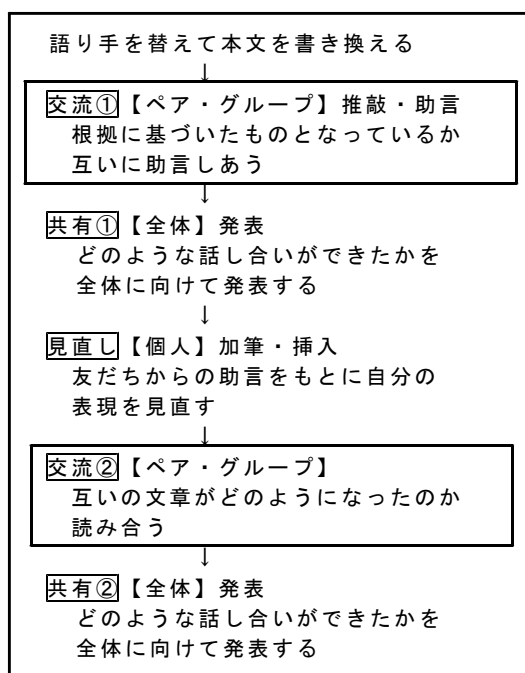
学習指導要領では「書くこと」の指導内容について、各学年に交流に関する指導事項を設けている（第1学年エ，第2学年エ，第3学年ウ）。交流活動は、書いた文章を互いに読み合ったり、意見を述べ合ったりして、自分の表現に役立てることにつながる。対象とする第1学年については、「題材のとらえ方や材料の用い方，根拠の明確さなど」を互いに確認し合うことが求められている。今回の研究でも、生徒が作品の書き換えを行う際には交流活動を取り入れ、根拠に基づいた本文理解ができているかどうかを互いに確認する場とする。前述の阿部も「作品への吟味・評価を『吟味文』として書くなかで読みが一層深くなる。さらにそれを子ども相互に交流することで吟味・評価が多様で豊かになっていく」と述べ、交流までを読みの指導過程として提案している。

② 交流を二度取り入れる意義

生徒はこれまでに『星の花が咲く頃に』で別の人物（戸部君）の立場からの日記への書き換え、『大人になれなかった弟たちへ』で母の立場からの「僕」への手紙の書き換えを体験した。そのたびに交流の時間を設けたが、互いの作品についての感想を述べ合うのみにとどまりがちで、それらを自分の表現に生かすまでには至っていない。そこで本研究では、交流の場を二度取り入れることにした。一度目は、どのような点に着目して互いの作品を読むのか、どのような質問や助言をしたらいいのかなどを十分に指導したうえで交流に臨ませる。二度目は先の交流の場で交わした助言を自分の表現に生かしたことを互いに評価する場とする。

（表2）

表2 交流の手順【筆者作成】



VI 授業実践（第1学年）

1 単元名 エーミールの立場から事件を見つめてみよう

教材名 「少年の日の思い出」ヘルマンヘッセ 光村図書

2 単元目標

登場人物のものの見方や考え方について自分の考えを持つ

3 指導計画及び学習目標

時	学習目標
第一次 1～3時	作品を読み、情景や登場人物の気持ちに関心を向けようとする。【関・読】
第二次 4～5時	場面の展開や人物の描写に注意しながら読み、登場人物の心情の移り変わりを捉え、人物のものの見方や考え方について、自分なりに考える。【読】
第三次 6～8時	書いた文章を互いに読んで感想や意見を交流し、自分の表現の参考にする【書】 作品で用いられている表現上の特色や、語句の意味について理解する【言】

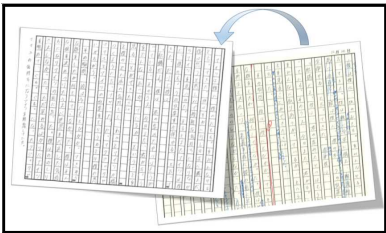
4 本時の学習（7時間目／8時間）

(1) 学習目標

語り手を変えて書き換えた文章を読み合い、気づいたことを交流し自分の表現に生かす。

(2) 授業仮説

書き換えた文章を互いに評価し合う交流の場において、評価の観点の提示やワークシートの工夫を行うことで、作品に対する自分の考えを根拠に基づいて表す力を身につけることができるだろう。

	学習活動	指導上の留意点
導入 3分	1 本時のめあてを確認する。  電子黒板を使って授業の流れを確認	交流による添削例を提示し、互いの助言を生かして文章を書き直すことを説明する。 今日の流れ 1 アドバイスや質問を考える 2 友だちと意見を伝え合う 3 全体に発表 4 自分の文章を見直す 5 改良版を読み合う 6 ふりかえり&発表  添削例 目標：書き換えた文章を読み合い、気づいたことを伝え合おう
展開	2 【交流①】書き換えた文章を読み合い感想や意見を交流する。  3名グループでの交流の様子 3 交流①でどのような意見を出し合ったか全体に報告する。	3名グループを編成して、次の観点で相手の文章と本文とを読み比べる。 ＜評価の観点＞ ①本文と照らし合わせてチェックする ・「僕」のしたことや考えたこと、「エーミール」のしたことや考えたことを、正しく書き分けているか。 ・エーミールの気持ちを描いているか。 ②アドバイスや質問をワークシートに書き込む ・なぜそう書き換えたのかと質問するところを見つける。

37分	4 友だちからもらった助言や交流を通して気づいたことをもとに、自分の書いた文章を直したり書き加えたりする。 5 【交流②】書き直した文章について評価し合う	ワークシートの交流コーナー記入例 ふりかえり 友だちにあまりいいアドバイスはできなかったけど、アドバイスをもらって生かすことはできた。 アドバイス 9行目の激しくどなりたりの文をちよっと自分の言葉で言い換えたほうがいいと思った。あと、最後かえら2行目の罪悪感が芽生えたのも、直接いわないで遠回しにいったほうがいい 質問 なんでなぐりそうになったりしたのに、そうしなかったの？		
まとめ	6 交流②でどのような意見を出し合ったか全体に報告する。 7 今回の学習を振り返り、身についた力や今後の課題を見つけてノートに書く。	次回予告 「僕が自分の少年時代の出来事とどのような気持ちで向き合ってきたか、また、ここで友人に語る気持ちになった理由について自分なりの考えをもつ」		

Ⅶ 結果と考察

1 作業仮説1の検証

文章を書き換える活動において、文中の工夫や仕掛けに着目させることで、人物の関係や主題を根拠に基づいて把握する力を身につけることができるだろう。

【結果】

第6時に物語の書き換えをさせるまでに、第一次（第2,3時）に物語の構成や登場人物像の把握、第二次（第4,5時）に「ちょう」に対する「僕」の心情の把握する指導を行った。このとき、「前半部分は必要か否か」について考え、必要である理由として「前半部分の客の様子が結末を予想させる伏線となっていること」「前半部分で客が語り始めるときの周囲の描写が自分で汚してしまった思い出を語るにふさわしい暗さや静けさを演出していること」を本文の記述を根拠に納得することができた。この学習をもとに、登場人物像を把握する際においても本文の記述の中に根拠を求められることに気づかせた。

初発の感想では登場人物のエーミールに対して、その言動を否定的に受け取る生徒がほとんどであった。しかし「エーミール」の視点で文章を書き換える際には、それは語り手の「僕」の視点で描かれているためであることに気づき、エーミールが各場面でどのような言動をとったのか、自分の解釈に間違いは無いかを何度も本文に立ち返って確かめる姿が見られた。また「僕」の人物像についても、「盗みを犯した悪い奴」という印象を持っていた生徒が、「ちょう集め」に関する「僕」の熱情を本文中より読み取ることで、その心情に理解を示すようになる姿も見られた（図3）。

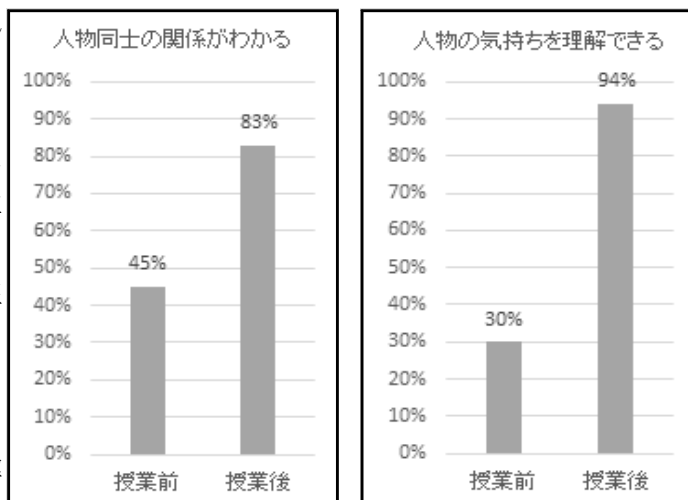


図3 登場人物についてのアンケート結果

【考察】

文学的文章の指導において、語り手の視点を替えて本文を書き換える学習は、生徒が登場人物の関係や主題を把握する際に、根拠に基づいて自分の考えを形成することに役立つものと考えられる。文章を書き換える活動は、ひな型としての本文があるため、普段は作文に苦手意識を持っている生徒も主体的に取り組むことができた。また、学習の第一次に文章の構成について、各場面が必要か否かを考えさせることは、その部分に描かれた事柄が、のちの事件や人物の言動に関わり、読解の根拠となることを理解させることに効果的であった。事後アンケートの結果でも94%の生徒が登場人物の心情をより理解できるようになったと答えている。

2 作業仮説2の検証

書き換えた文章を互いに読み、意見を交流させることによって、作品の内容を吟味し、自分の考えを根拠に基づいて表す力を身につけることができるだろう。

【結果】

第7時（本時）では、交流の場を2回設けた。交流は3名グループで行い、電子黒板に投映した評価の観点を参考に互いの文章の推敲をさせた。教師はあらかじめ全員の下書きに目を通しておき、交流が滞っているグループがあれば机間指導で助言を与えた。交流は全てのグループで円滑に進み、活発に意見を交換している姿が見られた。（図4）



図4 書き換えた文章の交流場面

【考察】

文章を書き換える学習において、書いた文章について意見を交流させたことで、生徒がより文学作品の内容を理解し、その作品に対する自分の考えを根拠に基づいて表す力が身についたと考えられる。それは作品について自分の考えをまとめる作文で見ることができた（図5）。「僕が自分の少年時代の出来事とどのような気持ちで向き合ってきたか、自分の考えを述べよ」との設問に対し、自分の考えとその根拠を合わせて記述できた生徒が全体の81%を占めた。事後アンケートによると、交流を取り入れた学習によって「自分とは違う意見が聞けて良かった」「自分の考え方を広かった」と答えた生徒の割合は83%にのぼった（図6）

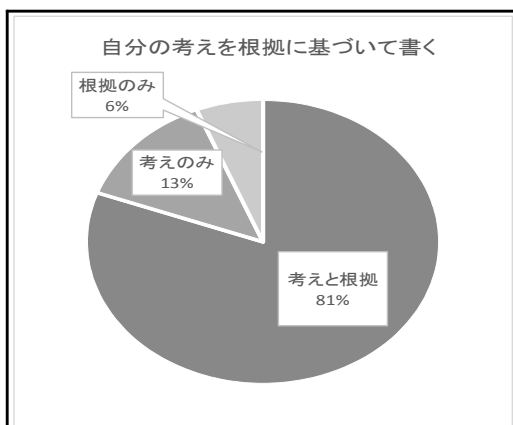


図5 作品についての作文の内容

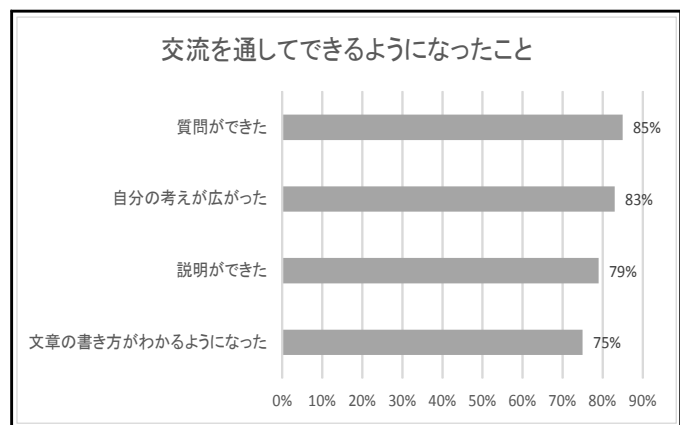


図6 交流についてのアンケート結果

また、二度目の交流を取り入れると、推敲に積極的に取り組み、清書した文章の語彙もより豊かになる様子が見られた（図7、図8）。

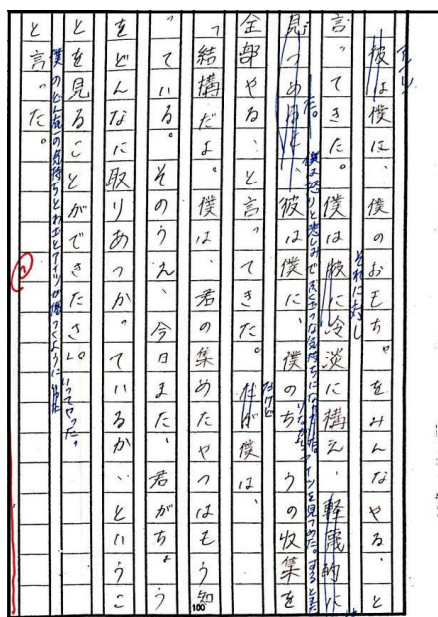


図7 交流を通して推敲した原稿



交流②後

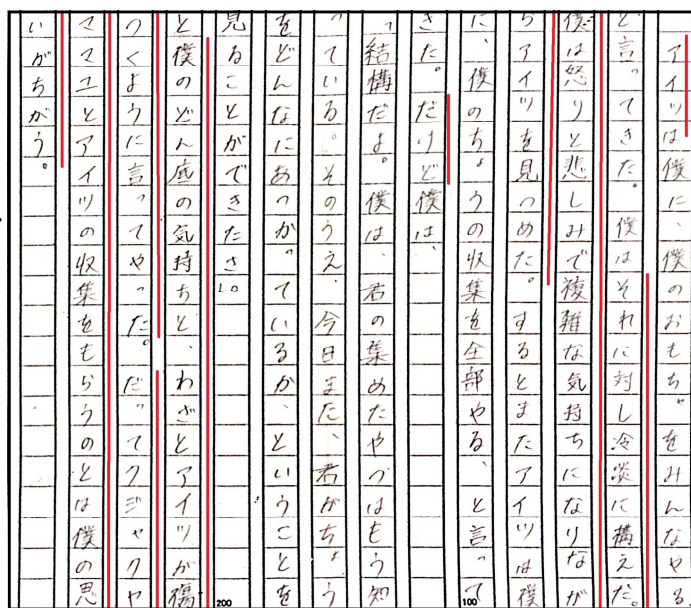


図8 推敲後に清書したもの（傍線は訂正、挿入箇所）

表3 学習後の感想

- 初めて読んだときはただのけんかくらいかなと思ったけれど、だんだん深く読んで僕の気持ちやエーミールの気持ちを考えていくうちに、一つの物語でもほかの視点から見たら、違う世界、視点から見られるんだなと思いました。【書き換え、交流の成果】
- 友だちと交流することで、自分が気づかなかったことは直して、いいところは褒められてうれしい。交換した相手のものも、自分が一つアドバイスを言ってあげるだけで、自分一人で考えるよりもっともったいものになると思います。【助言の成果】
- エーミールに対して最初はただ嫌なヤツとしか思わなかったけど、文章を書き換えてみてからはエーミールがなぜ軽蔑的に見つめていたのかがわかるようになった。【読みの深まり】

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- (1) 文章を書き換える活動において、文中の工夫や仕掛けに着目させることで、根拠に基づいて人物の関係や主題を把握する力を身につけることができた。
- (2) 書き換えた文章を互いに読み、意見を交流させることによって、文学作品の内容を吟味し、自分の考えを根拠に基づいて表す力を身につけることができた。

2 課題

- (1) 自分の考えを根拠に基づいて書く際に、根拠のみ、あるいは考えのみを述べている生徒がまだいるので、交流の際には、発問や課題の与え方を工夫する必要がある。
- (2) 交流が滞りがちなグループに、日頃から交流の進め方の指導を行ったり、メンバー構成を工夫したりする必要がある。

<主な参考・引用文献>

『中学校学習指導要領解説 国語編』	文部科学省	大日本図書株式会社	2008
『国語力をつける物語・小説の「読み」の授業』	阿部昇	明治図書	2015
『国語科授業にスリルとサスペンスを』	河野庸介	教育出版	2010